

第67回 法務省札幌矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール 入賞作品集



どさんこ



刑務所の受刑者や少年院の在院者は、施設の中で外部の専門家の方々のご協力を得て、クラブ活動や矯正教育の時間に、絵画や書道、短歌などの作品づくりに取り組んでいます。札幌矯正管区では、これらの作品を対象として年に1回、コンクールを行っており、各分野で活躍される専門家に審査をしていただいています。作品をとおして、受刑者や在院者のことを知っていただくきっかけになれば幸いです。

・刑事施設

美術部門(写生画・自由画)
書道部門
ペン書道部門
文芸部門
(短歌・俳句・詩・随筆・読書感想文)

・少年施設

絵画部門
書道部門
ペン書道部門
文芸部門
(短歌・俳句・詩・作文)

入賞作品等を展示する作品展を毎年開催しています。開催予定は、法務省ホームページ内の「札幌矯正管区フロントページ」に掲載します。



【札幌矯正管区フロントページ】

絵画部門

(刑事施設)

写生画 第一席

『初夏』

旭川刑務所 A・Y

画面一杯に緻密な点描で表現した努力作です。色彩も多彩で素晴らしい反面、点描が単調で少々マンネリ的ななり、緑の新鮮さや初夏の爽やかさが表現できなかつたのが惜しまれます。



写生画 第二席

『静秋』

旭川刑務所 I・Y

暖色系の色彩を中心に、点描の重ね塗で表現した技法で、秋色の雰囲気を見事に描いております。描く対象物により、色々と描く技法を工夫し、画面全体から暖かい秋の空気が伝わってくる作品です。



写生画 第三席

『過去が咲いている今、未来の蕾で一杯な今』

函館少年刑務所 K・K

大まかな筆使いと大胆な構図で力強い作品です。色調も程よく配合され、バランスが取れており、強く見た人に印象付ける絵です。



総評

写生画は、作者が描く対象物から受けた感動や印象をどのように表現するかが問われる絵画です。この部門では、作者の描く意図が明確で、独自の視点で特徴のある表現と観察力が優れた作品が入賞作品となりました。

自由画 第一席

『夢窓』
月形刑務所 N・T
題材に独自性があり、見る人に色々なことを連想させるユニークな作品です。筆使いも自由闊達で、楽しんで絵を描いていることが想像されます。型にとられない大胆な描き方と細かな描き方の両方で表現しております。



自由画 第二席

『花和尚 魯知深』
月形刑務所 T・T
迫力ある表現で強い印象を与える作品です。画面全体を丁寧に描写しており、色々な技法を駆使して描いている力作です。

自由画 第三席

『武者絵平将門』
函館少年刑務所 Y・H
絵の細部まで描写が行き届いており、作者の誠実さが絵で表現されており、一本一本の線の丁寧な描き方や色彩の美しさがこの絵の素晴らしいところだと思います。



総評

この部門では、色々な題材の絵や様々な描く技法を工夫した絵等が見られました。一筆一筆、丁寧な描写をした絵、反対に大まかな筆使いによる力強さの表現等、色々な個性的な作品も見られました。その中でも何をどのように描くか、目的を明確に持ち表現している絵、作者が独自の描き方をしている絵が入賞しました。

書道部門

(刑事施設)

仰望風聲二城必從則王業隆矣
雖淹留於兩邑乃致速於天下

悠小 花

第三席

『臥薪嘗膽』

札幌刑務支所 S・R

この言葉の由来に満ち満ちる人間の業の深さを教えられます。そして、この作品からにじみ出る気概に感嘆です。気骨ある一作です。「艱難汝を玉にする」の名言も加えて、大切にしてください。

第一席

『學書貴弄翰』

網走刑務所 W・N

これまでに積み重ねてきた学書をひけらかすことなく、悠々と、しかも堂々とした運筆が貫通し爽快な一作です。四千年もの漢字の歴史とその書体への眼差しをさらに深め、楽しく書いてください。

第二席

『光明皇后 樂毅論』

旭川刑務所 Y・H

古来から尊ばれてきた書聖・王羲之の「樂毅論」が奈良時代に移入され、光明皇后が臨書したと伝えられる凛々しい書です。一画一画、縦画横画の生き生きとした書線は全体にみなぎり、引き締まった臨書作品です。

嘗卧薪
膽

総評

各々の場からの書作品の前に、しっかりと丁寧に拝見させていただきました。皆さんの制作時は、北の地とは思えぬ程の猛暑日で、集中する書作は厳しかったと思います。その中で、悠然とご自身の持ち得る書法を発揮された一作には感嘆いたしました。また、今回は多字数になる臨書作品が少なく、細々としていますのは残念です。半切の長い紙でなくとも半紙に5、6文字でもいいので、是非挑戦してください。書のルーツ、王羲之の書を習い、流麗で温雅、端正な書の筆運びを知ってほしいです。この過程こそが自分磨きです。

學書貴弄翰

令和六年大暑

鬼山書

ペン書道部門 (刑事施設)

第一席

『我が更生』

函館少年刑務所 A・K
難しい題材を見事に扱いました。ゴシック体と明朝体の文字の迫力に驚かされました。また、台紙にレンガ柄を取り入れ、全体を整えました。手間のかかる力作でした。

第二席

『梁塵秘抄歌謡
(後白河法皇)の布袋』
旭川刑務所 Y・H

布袋さんを大きく表現して、文章と一致させています。筆ペンをつまく使い、文字も読みやすく面白い作品です。

第三席

『超越』

函館少年刑務所 W・Y
流れるような行書で「走によう」をつまく書きました。双鉤填墨(そうこうてんぼく)といって文字の輪郭をつづめるのは大変なことです。バックのピンク色も丁寧に塗れました。



総評

どんな内容の作品を書こうかといういろいろ考えて工夫されていました。題材を決めるまでが作品づくりの大半です。強く訴える言葉の重みを受け取りながら拝見しました。般若心経は一字一仏といって丁寧に書かれていました。ここに選ばれた作品は、時間をかけて工夫された目に止まるものばかりでしたが、日常のペン書道は役に立つ文字を書かなければなりません。①読みやすい、②正しい文字、③速く 書けるように努めてください。



令和5年度の入賞作品展の様子(札幌駅前通地下広場 チ・カ・ホ)



佳作 『月の明かりが指す場所』 紫明女子学院 M・K

絵画部門

(少年施設)

総評

応募作品数が少なく、入賞に該当する作品がありませんでした。佳作に選んだ作品は、小品ですが、彩色の方法に工夫が見られ、魅力的な作品です。

ペン書道部門

(少年施設)

第二席

『無題』

北海少年院 O・S

用紙全体を見て、これ位の文字の大きさは読みやすく、字形もしっかりと書かれています。

もう今日は二度と
戻っはこない
一度きりの今日
もうやり直せない
巻き戻せない
人生だから

総評

誤字があつては、作品展では展示できません。わずか「点一個」足りないだけでも通用しません。一生懸命に書いた作品を丁寧に拝見しました。心が伝わって来ました。

人が死ぬということは、
単純な引き算で分ないけれど
人が生まれるということは、
足し算では収まらうない
掛け算の出来事なのだ。

佳作 『無題』 北海少年院 M・S

子は家族の和の中でこそ安心するのだ。

佳作 『無題』 北海少年院 M・S

書道部門

(少年施設)

第一席

『神光照天地』
北海少年院 A・H
ひと筆一筆の重厚な線が次々の画を成し、しっかりとした文字姿を書ききりました。五文字の調和も見事です。堂々とした筆力は勇ましく、紙面をより大きく見せています。

神光照
天地

我心固
非石

第二席

『我心固非石』
北海少年院 O・Y
複雑な文字、簡素な文字の組み合わせは、大変難しいものですが、この作品は文字達が互いに良く、協調し合い、面を引き立てています。「心」、「非」が輝きます。

第三席

『白砂青松』
紫明女子学院 I・M
どの文字にも正確な角度を成し、清らかな文字姿の一作です。「白砂青松」の言葉の意を汲み、青墨を使用したのでしょうか。このような半紙の漢字作品は、単に弱さになり惜しいです。

白砂
青松

総評

今年も一枚一枚丁寧に書かれた作品が集まりました。各々の場で共通の言葉に集中したために難しかった方もいらしたかと思いますが、二文字でも三文字でも、自分らしい言葉と向き合ってほしいです。今回は一文字での作品が一点、好ましく拝見しました。ただ、もっと文字の持つ意味を調べてください。文字の成立を知ると表現も多様に膨らみます。好きな書体を見つけて半紙いっぱい大きく書いてみましょう。自分らしい書に出合ってください。

七夕伝説

佳作 『七夕伝説』
紫明女子学院 I・A

山川千里

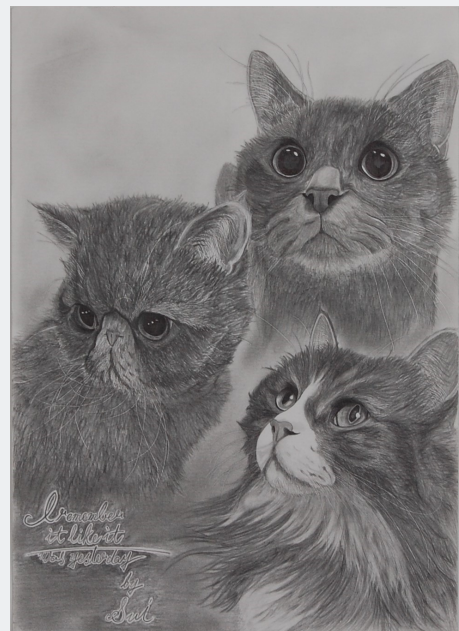
佳作 『山川千里』
北海少年院 I・N

青松白波

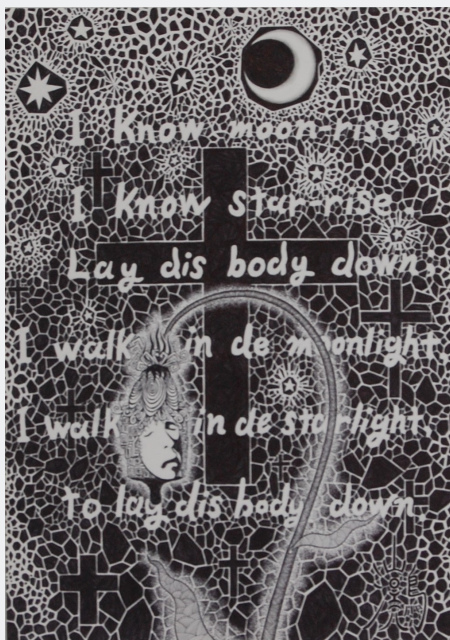
佳作 『青松白波』
紫明女子学院 O・Y



自由画 佳作
『師匠』 札幌刑務所 O・S



写生画 佳作
『記憶』 函館少年刑務所 Y・H



自由画 佳作
『Lay Dis Body Down』 函館少年刑務所 Y・K



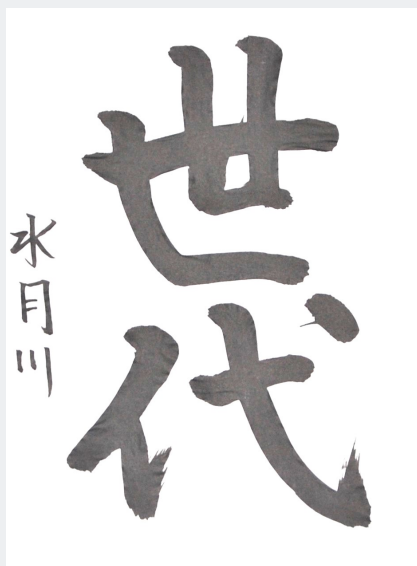
写生画 佳作
『幸せを君に』 札幌刑務支所 S・R



自由画 佳作
『月夜に舞心龍と桜』 月形刑務所 M・Y



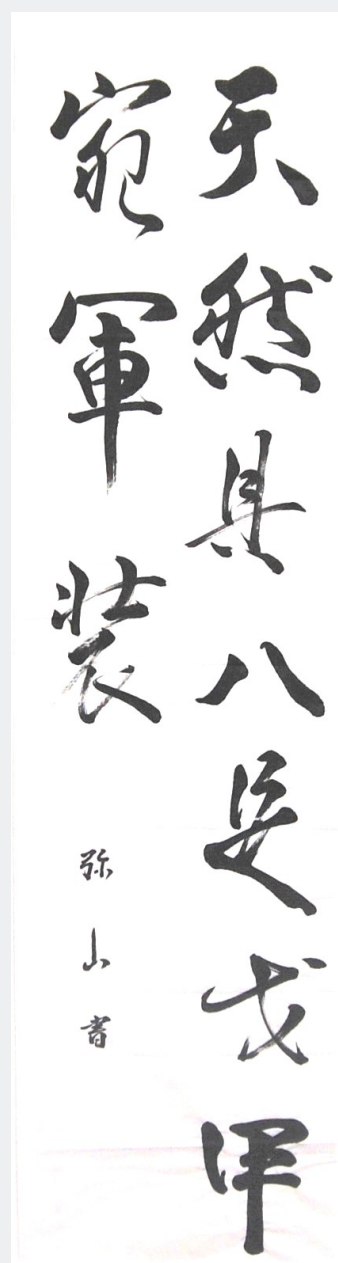
写生画 佳作
『華瓶の花』 釧路刑務支所 O・S



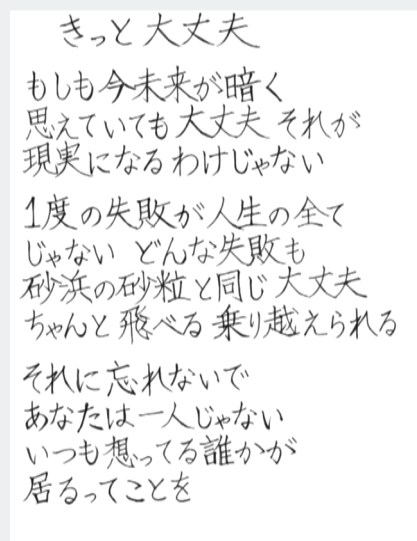
書道（刑事施設の部） 佳作
『世代』 月形刑務所 S・N



書道（刑事施設の部） 佳作
『決定』 月形刑務所 H・Y



書道（刑事施設の部） 佳作
『蟹』 旭川刑務所 S・T



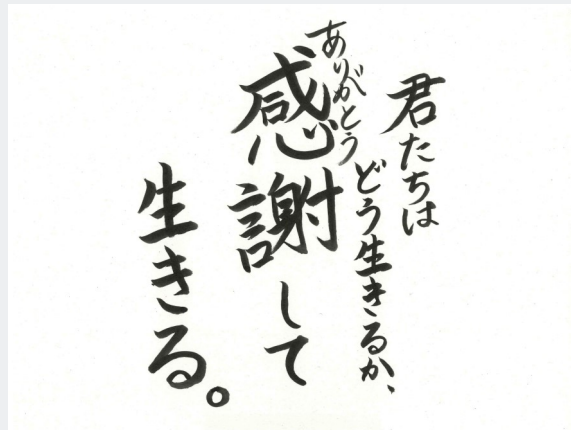
ペン書道（刑事施設の部） 佳作
『きっと大丈夫』
札幌刑務支所 K・M



ペン書道（刑事施設の部） 佳作
『新年のあいさつ』
月形刑務所 H・Y



令和5年度の入賞作品展の様子(札幌駅前通地下広場 チ・カ・ホ)



ペン書道（刑事施設の部） 佳作
『支えられて生きてる喜び』
札幌刑務支所 K・M

短歌

(刑事施設の部・少年施設の部)

刑事施設の部

第一席

梅の木につがいの目白が訪れて
今日のよい事これが二つ目

札幌刑務所
H・Y

第二席

青になればカッコウと鳴る信号機
四季を通じてここは春の野

札幌刑務支所
N・S

第三席

陽気者演じた日々の仮面脱ぎ

未来へ向けて泣き顔洗う

函館少年刑務所 S・Y

席 梅の次に目白のつがいが訪れている情景がまず浮かんでくる。このような情景を詠んだ歌はありそうだが、この情景を二つ目の良いこととして詠っているところに独自性があり、爽やかな印象を残す。一つ目の良いことは、すでにあった。どんな良いことだったのだろうと思いを馳せなくなる。日々前向きな気持ちで過ごしている作者だからこそ、何気ない風景を良いこととの出会いの風景として捉えることができた。

一席 横断歩道を渡る時に誰もがカッコーの声を当たり前のように聞いている。そして、信号が点滅してカッコーの声が終わりそうになると慌てて横断したりする。しかし、作者はそこに春の野を見た。しかも四季を通じてどんなお天気でも。こんなふうに捉えられたら、車が行き交う騒々しい都会の空間も一変して明るい世界に変わる。同じ情景の中にあつて、何を見て、何を心に響かせるかは体験する者に委ねられる。交差点を春の野として見る素晴らしい短歌が生まれた。

第三席 時間的経過とともに変化してきた心が表現されている。心で泣いている時も陽気に振舞っていたのだから、演じる日々は辛かっただろう。仮面を脱ぐと素のまま自分が現れ、その自分は泣いていたかもしれない。しかし、泣いている自分も正直に受け止められたから、未来へと足を踏み出そうと顔を洗うことができた。涙を拭い去ったら前へ進む力が生まれただろう。未来への希望が見える。

少年施設の部

第一席

君と会う途端に弾む我が心
これが恋かと頬染まりゆく

北海少年院
S・Y

第二席

スーパ―でお母さん気分お買い物
ルンルンだけで予算オーバー

紫明女子学院
I · A

第一席 恋している自分を素直に表現している。この歌は若者にしか詠えない。まさに恋している君に会うだけで心臓がドキドキして、心は弾む。君に会うただそれだけで自分の状態がすっかり変わってしまうということを「途端」という言葉が如実に語っている。そして、「これが恋なんだ」と実感している。顔が熱くなりきつと頬も赤くなっていることだろう。恋している自分をそのままに表現して、瑞々しい恋の歌になった。

第二席 お母さんからスーパ―での買い物を買されて誇らしく嬉しく
気持ち「ルンルン」に表れている。実際、お母さんの気分にな
って、あれこれ楽しく籠に入れているうちに予算を超えてしま
った。家計をやり繰りしているつも買物しているお母さんは
やっぱりすごい！と感じたのではないだろうか。素直な詠いぶり
から、楽しく買物をしている様が見えてくる。声に出して読ん
でみると、リズムが良く、楽しげな作者の声が聞こえてきそうで
ある。

総評

【刑事施設の部】

今年も良い作品がたくさんあり、選歌が大変だった。今年は社会情勢に目を向けた短歌が少なかった。主に、家族のこと、日々の生活のこと、自然を見ていて感じたこと、自戒を込めた短歌が詠われている。真摯に内観しながら更生に向けて努力している姿が見えてくる短歌もあった。毎日の決まった生活の中での発見や気づきから、また回想したり、思いを遠くへ羽ばたかせたりして、詠われている短歌もあり、豊かな感性が感じられる。応募された作品から、どんなことを感じてどんな生活を送っているかが読み取れる。選ばせていただいた短歌は、そのほんの一部である。どの作品から、心の声が聞こえてくる。

【少年施設の部】

今年も応募数が少なかった。入賞は第二席まで、佳作を選ぶだけの応募数がなかった。入賞した短歌はどちらも若者らしく素直に伸びやかに自分の気持ちを書き表している。短歌は57577の五句三十一文字の定型の中で表現しなければならぬから、難しいと感じるかもしれない。しかし、定型であることが、逆に表現したいことを受け止めたり、引き出したりしてくれる助けになる。今、SNSなどを使いながら、自在に短歌を作り発信している若者がたくさんいる。短歌のルールはシンプルなので、溢れる思いを短歌に託して表現してみることにチャレンジしてみたいか、が欲しい。きつと思いがけない発見や気づきがあり、短歌という表現手段を得て良かったと思ふことがあるのではないだろうか。

俳句

(刑事施設の部・少年施設の部)

刑事施設の部

第一席

お母あの手ポケットの中カイロかな

札幌刑務支所 I・C

第二席

夏至の日の終点のなき縄電車

網走刑務支所 O・M

第三席

縄をなふ祖父の一途や冬構

札幌拘置支所 S・J

第一席 寒風に曝されて歩く、ふと母のポケットに手を入れた時、カイロと思うほどの「あたたかさ」を感じたのだ。お母さんも手を握り返してくれたのだろう。

第二席 長い夏至の日なのだが、飽きもせず縄電車ですんでいるのだ。ポチポチとお母さんの声が掛かり、お互いに明日の約束をして我が家に帰っていく。

第三席 どれだけの縄が必要かを十分に知っている祖父、毎年毎年自分の担当であるかのように準備をする祖父に畏敬の念を持つ作者。句としては最高点をあげたい。

少年施設の部

第一席

嫌なことシャボン玉に思いませ

北海少年院 N・R

第二席

花見会花びらとともにまう心

紫明女子学院 A・N

第三席

二人だけ幸せいっぱい遊園地

北海少年院 H・K

第一席 自分だけで嫌なことを解決しようと思っている作者。共感できるいい句だ。

第二席 花の終盤なのだ。桜を見た飲みが落花に混じって心までもが舞っている。花びらとともに大勢で喜んでいる姿が見える。

第三席 冬から解放された喜びで遊園地に集まる。その中で皆に見られながら満足感に浸っている。一生の思い出になる楽しい時間だったのだろう。



令和5年度の入賞作品展の様子(札幌駅前通地下広場 チ・カ・ホ)

総評

【刑事施設の部】

たくさん応募を頂いたが、季節の入っていない作品が多くあったことが残念でならない。少し添削をするだけで佳句となるのだが、例年の如く作品の添削はしていない。殊に「情」の作品を優先させた。

【少年施設の部】

句の数が少ないことと同じような句が多いことは、添削の勉強が足りないのかと思う。せめて100句くらいの応募を期待したい。

詩

(刑事施設の部・少年施設の部)

第一席（刑事施設の部）

生かされてる

旭川刑務所 O・Y

コンクリート作りの高い塀の要塞のような外の別世界に想いを馳せる

多くの囚人の中の一人

だいたい同じ毎日

泣いても、喚いても時が来るまでは

ここから出ることはできない

しかし間違えるな

ココに入ることは謝罪でも罪滅ぼしでもなんでもない

ココで幾ら心を入れ替え、外の世界に戻っても

被害者に対する償いとはならない

だから原点に立ち返り、問題の本質を見つめ

同じことを絶対に繰り返さないように考える場所

被害者への償いとは何かと日々考え、物の大切さ、

一日の大切さ、人の想いの大切さ

そして人の命の尊さや大切さと大切なものを考える場所でもある

だから、自分達はココで

何事にも我慢して耐え、一歩ずつ前へ進み

毎日凌ぎを削るココは最前線

数年前までは分からなかった「生かされてる」という言葉

善人ぶったクリスチャンか似非宗教家が信者を勧誘する時に使う

方便のようなものだと思っていた

いや、それ程にも意識さえしていなかった

でも今はわかる

自分は多くの人に支えられ

社会によって「生かされてる」ということを

ココの生活で感じる今日この頃

生きる、生きている、確かにこれは紛れもない事実だが、一歩引いて考えてみる。果たしてそうか・・・と。大切なことをなおざりにしていたのだ。本当は大勢の人に自分は支えられていたのだ。それが今になってよく分かるようになってきた。

第二席（刑事施設の部）

今と向き合う

函館少年刑務所 S・Y

いつもと変わらない償いの一日だった赦されるまで作業だけをこなす

突然名前を呼ばれて慌てて返事をする

小さな部屋へ連れていかれた

強張った顔の職員に少しじろく

「君の父親が亡くなられたそうだ」

母の便りを渡される

ふいに父の顔が浮かんだ

足の震えが止まらなかつた

あの大きな背中も

タバコ臭い髪も

いつも同じ服を着ても

全部大好きだったのに

こんな息子でゴメン

ゴメンなつて堪えきれず

声殺して泣いた

俺がまともな人生歩んでいたなら

俺が罪を犯さなければ

独りじゃ背負いきれないほどの

大きな罪と重い過去

後悔が押し寄せる波のように

この心を咎め続ける

大切な人を失うということが

こんなにも辛いことだったなんて

俺は今まで何をしていたのだろう

あの大きないびきも

少し伸びた髪も

いつもゴロゴロしてても

全部大好きだったのに

父さん正直に言うとなね

ときより泣きそうになるくらい

父さんと会いたくなってしまっんだ

叶わないと分かっている

昔に戻りたくなってしまっんだ

いつもと変わらない償いの一日

赦されるまで作業だけをこなす

格子窓に閉ざされた

青い空は心の中を見透かしたように

少し淋しげに写る

父さんそこから見て下さい

私は心の底から生まれ変わります

短慮の所為の結果が、今の自分である。今は亡き父のためにも、必ず更生の道を歩むこの決意が文脈から伝わってきます。

第三席（刑事施設の部）

アクリル板の向こうに

函館少年刑務所 T・D

アクリル板の向こうに母が居る

瘦せ細った皺だらけの手に胸が熱くなる

遠路はるばる有り難う

親孝行できるまで長生きしてと祈るばかり

アクリル板の向こうに妻が居る

笑顔の陰にちらりと見える疲れた表情

苦勞ばかりかけて申し訳ない

更生するその日まで、どうか辛抱して欲しい

アクリル板の向こうに我が子が居る

出席が叶わなかった卒業式に入學式

友達にできたか、勉強はついていけているか

幼き頃と変わらぬ面影に心癒される

久々の再会に止めどなく溢れる言葉

永遠に続けと願う語らいの時間も

終了を告げる合図で泣く泣く打ち切られる

あつという間の三十分

片道四時間で実現した余りに貴重な三十分

アクリル板越しにハイタッチ

一人ひとりとハイタッチ

硬く冷たい無機質な手の感触

でも心は確かに温かい

言葉はなくても通じ合う想い

ふと青空を見上げれば流れる雲

心の中で託す、想いを乗せて届けと

冷たいアクリル板を交えての語らい。時間は短いだけで、いつしか湧いてくる更生への思い、そして決意。読み手にもそれが伝わってくるのです。

総評

今回、詩部門（刑事施設

設）には、道内6施設より、24点に及び作品が寄せられました。傾向として、情景を描いた作品もさることながら、心の純化に根差した作品が目立ちました。

ここで、戦前、戦後と長い間、女性の立場で詩を書き続けた永瀬清子さんの詩創作姿勢の一端を紹介しますので、参考にしてください。「詩とは、記憶に倣う言葉の流れである。そして、詩を書く時は出し惜しみせず、中心から最も肝心の点から書くべきだ。最初の行が、すべての尺度になる。又、自分の言葉をみつけることが大切なのだ。」と申しております。

第一席（少年施設の部）

可能性

北海少年院 A・Y

幼い頃はテトラポットに落ちた。

小学校五年生では、初の悪さで信頼が落ちた。

中学校一年生では、先輩ともめて階段から落ちた。

中学校三年生では、学校一の悪人となり人間性が落ちた。

十五歳の時には、受験に落ちた。

十七歳の時には、悪名が広まり信用が落ちた。

そして、十八歳の時、二度、警察のお世話になり、身近で支えてくれた人の涙を落とさせた。

ああしていれば、こうしていれば落ちこぼれにはならなかったと何度も思っていたけど、悲観するのには、まだ早い事に気づいた。

正當に、そして正直に生きている人間を羨ましがっている自分がいるという事は、かわれる可能性はある。

俺にできない事はないと、ずっと言いきかせてきた。つっぱる事が全てじゃない。

俺にも真面目に生きることではできる。

「落ちた」という言葉が7回繰り返され、一つのリズムが生まれています。「落とした」ではなく「落ちた」という表現から、静かに振り返る自分が感じられます。後半、変われることに「気づいた」自分。変わる可能性への気づきと思いは未来への確かな一歩を確信させます。

第二席（少年施設の部）

恋心

紫明女子学院 I・M

冬の満月を見て明るい、と呟いた

冷たいのか暖かいのか、分からない光

心の波が、高くなる

天ノ邪鬼な僕は、そっぽを向いた

あの月がきみのようだ、と思ってしまった

月よ、あまり照らさないでくれないか

顔に写る喜びの色が、隠せなくなる

ああ、早くきみに会いたい

冬の明るい満月を見て、ふと、いとし
い人の顔を思い浮かべ、思わず恋しさを
募らせる自分。そのような自分への戸惑
い。空想の世界と現実の世界を行き来し
ながら、恋心のやるせなさ、会いたい
という強い思いが表現の中から率直に伝
わってきます。

第三席（少年施設の部）

過去の恋愛

紫明女子学院 O・Y

夜中に目が覚めて あなたを想う 切ない夜

あの夏 君と見た花火 君が最初で最後

何度言っても足りない 好きの2文字

冷めた日 あなたは 他人のように思えた

一途に 想えば思うほど 辛くなる

もう会えない そう思うと 胸が痛む

別れたのに 記念日の日 君を思い出す

今日は君 明日はあなた 日替わりランチみた

いな恋愛に サヨナラ

君と夢で会えたら できなかったことがしたい

ハグした時の 安心感 他にはない

一緒に乗った観覧車 今はもう違う誰かと

もう一度 声が聞きたい 側にいたかった

復縁したい その一言で 嬉しかった

繋いだ手 抱き合った温もり またいつか

天国の君へ 守りたかった 幸せにしたかった

幸せは2人で共有しよう

夜中、目覚めた時に思い出す過ぎた日
の恋愛。「あなた」「君」、呼び交わし
た言葉や思い出が次々と心に湧き上がっ
てきます。確かな温もりの記憶とともに、
今も消えない思いや願いが、言葉の奥
から祈りのように立ち上って感じられ
ます。

総評

どの詩からも、今生きているという実感がみずみずしく感じられました。詩には、それぞれ独自の世界があります。作者の思いが、言葉の花束のようにまとめられ、あるいは映像のように展開され、心に直接伝わります。つまり、詩は、詩の世界は、表現を通して読む人と共有されます。書いた人が意図したかどうかは別に、切々と綴られた表現や言葉の結晶は読む人の心に伝わります。みんなが詩を書きたいと思うわけはありません。しかし、詩を書きたいと思うこと、詩を書くという行為は、かけがえのない個性です。貴重な個性です。書かれた詩は、同じものが二つとありません。詩を書くことは、言葉や感性を磨くことであり、新しい自分を生み出すことだと思えます。詩を書くことは時には苦しい作業です。しかし、出来上がった作品は、自分のかわいい大切な分身です。ぜひ他の人の詩も読んでみましょう。その詩に描かれた世界や独特の表現に触れることで、世界が広がります。自分の中に眠っている感覚や感性に気づくかもしれません。親しい友との出会いに似た気がする、という人もいます。詩を書いたり読んだりすることを楽しみ、その中で新しい自分を見つけていくことができるならば、未来の自分づくりにつながる良い手段ともなることでしょう。

随筆（刑事施設の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	旭川刑務所 Y・H	短歌と出会って	俳句と並んで、日本独特の短い詩、短歌。21世紀の今日に至るも連綿と続いているのです。その短歌に魅了され、沈潜する姿が述べられております。あなたの短歌の結晶ともいえる私歌集の完成を私も強く願っております。
第二席	函館少年刑務所 H・A	簿記のすすめ	時間を有効に、また無駄なく利用する、利用したい・・・よく耳にします。あなたは、そのことを実際に利用して、立派な成果を挙げられました。その喜びが読み手にも伝わってきます。
第三席	函館少年刑務所 T・D	切手が繋ぐ親子の絆	切手の収集は、一時ブームのようになったことがあります。切手に関して蓄えられたあなたの知識と経験をお子様にも伝えてあげてください。それは教養を高め、立派な文化の継承になるでしょう。
今年度、随筆部門には道内6施設より19点に及び作品が寄せられました。作品をそれぞれ読み、分析、整理してみると、様々な視点からの思いが述べられ、新鮮な感動を覚えました。短歌を通しての自己再生、資格取得に果敢に挑戦する姿、趣味を次世代に伝えようとする願いなど、皆さんの心の純化、陶冶に直に接することができました。それはまた、私にとりまして大きな喜びです。			

読書感想文（刑事施設の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	札幌刑務支所 M・R	私の心を守ってくれた本	不安と孤独の状態にある今の私。失意の底にある私に、励ましと安らぎをもたらしてくれたのは、一冊の本でした。お母様が用意されたこの本は、あなたを見守り、励まし、立派に社会復帰されることを強く願っているのですね。
第二席	函館少年刑務所 T・Y	『生き方 - 人間として大切なこと』を読んで	読み終わって得られた貴重な感想。すなわち、無知で見栄張りのあなたでしたが、自分を正しく導いてくれた喜びが文章から受け取ることができます。それは、あなたの成長する姿です。
第三席	月形刑務所 H・Y	賭博者	文豪ドストエフスキーには、悪癖がありました。賭け、賭博をすることです。自らの体験が基になって生まれたこの作品は、原稿なしの口述によるものです。当時の一般的ロシア人の財産形成のあり方など興味津々、取り組まれたあなたに敬意を表するばかりです。
今年度、読書感想文部門には、道内6施設から27点に及び作品が寄せられました。この部門の基本は、本を相手に本と直接対話することです。注意しなければならないのは、読書イコール小説、物語オンリーではないのです。幅広く多様な作品、本に接することをお勧めします。読んで心に湧くまとまった考え、感じ方が肝要です。他からの受け売りではなく、オリジナルな感想、考えが重視されます。筋や内容を紹介するだけでは、感想とは言えません。あくまでも本とあなたとの対話が基底になります。			

作文（少年施設の部）

	作 者	タイトル	講 評
第一席	北海少年院 K・R	今までの自分の生活を振り返り、今の気持ちや今後について	自分を見つめて気づいたこと、先生の教えや集団の活動から学んだことなどが素直に表現されています。また、そこから得た力をもとに、自分を変えてきた一つひとつの事柄や挑戦する自分が書かれていて、今後の目標に向けての強い思いが伝わってきます。
第二席	紫明女子学院 M・K	拝啓、愛するままへ	母親への溢れる思いがすみずみまで表現されています。自分のために食事を作ってくれたり、一緒に泣いてくれたりしたこと。どんなに反抗的な自分に対しても愛情を注ぎ続けてくれたこと。母親の笑顔や怖い顔の思い出。謝罪の言葉を伝えられなかった後悔とともに、母親への心からの感謝、天国への祈りが伝わります。

今回の作品を読み終えて、次のように感じました。自分を見つめ、自分の心を表現しようとする言葉は、人に伝わるということ。じっくり考え、言葉を探し、考えや思いを表現する言葉は、共感をえられるということです。自分の心に向き合った言葉はなぜ伝わるのでしょうか。じっくり振り返ることで、過去の自分や過去から現在への一つ一つのつながりが見えてきます。また人の気持ちが想像できるようになります。そして、自分の正直な思いが見えてきます。しかし、それだけでは周りからは見えません。書くときには誰でも自問自答します。自分の思いにぴったりの表現だろうか、人に伝わるだろうか。つまり、書くことは、自分の心に問い、読む人の心にも問いかけることではないかと思います。そして表現を工夫します。もやもやしていた自分の気持ちや考えは、書くことによって、言葉に表してみることによって、だんだんはっきりするものだと思います。言葉は、ウソも、本当も、その中間のことも伝えられます。その特長を生かして、小説や物語が作られます。また、言葉は、ウソや間違った情報を本当らしく伝えることもできます。しかし、自分について書く文章は、どんなに本当らしく書いてもウソか本当かは自分が一番よく分かります。自分の前ではウソは書けません。自分に向き合い、自分の考えや思いを書くことは、素直な自分を探し出す良い方法だと思います。書くことで見えてきた思いや考え、「なりたい自分」は本物です。書くことは、自分を鍛え、人や社会との良いつながりを作り、「なりたい自分」を後押しする智恵と勇気を与えてくれると信じます。

矯正施設（刑事施設（刑務所、拘置所）や少年施設（少年院、少年鑑別所））に関する様々な情報を掲載しています！



法務省矯正局
ホームページ

矯正施設の取り組みやイベント情報などを発信しています！



法務省矯正局
公式X

法務省の施策などについて、動画で紹介しています！



法務省公式
YouTube

矯正職員の採用試験について知りたい方はこちらへ！



矯正職員
採用ページ

第67回 法務省札幌矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール 入賞作品集

令和7年2月 発 行

編集・発行 札幌矯正管区第三部

発 行 所 札幌市東区東苗穂1-2-5-5

TEL 011(783)5063

FAX 011(780)2207
